

委員会委員長 本年度の抱負と方針

増強・退会防止委員会

委員長 小久保富夫 (新狭山RC)

クラブの活性化を

本年度は、退会防止と女性会員の増強に特に力を入れるため、ロータリー家族委員会を新設しました。第2570地区では初めての女性役員(3名)は、卓話などで声がかかれればぜひお役に立ちたいと申しております。

最近女性の活躍は目覚しく、既に2570地区でも女性の会長がおります。日本でも、世界のロータリークラブでも、女性の会員が増強されています。「女性会員のいるクラブは皆明るく退会者もなく、活気にあふれている」ということです。

会員増強は充実したクラブづくりのため、補充しないと衰退してしまいます。クラブの活性化のため、会長、幹事さんそして増強委員長さんの熱意をよろしくお願い致します。

私たちクラブ奉仕委員会全員協力しあって、高山ガバナーの要請におこたえし、精いっぱい務めさせて頂きますので、皆様よろしくお願い致します。

ロータリー家族委員会

委員長 関 靖子 (新座RC)

男女同権の社会を

2003-04年度RI会長ジョナサンB.マジアベ氏、高山ガバナーの方針として、家族委員会を新設するよう提唱されました。家族委員会とは、ロータリアンの家族すなわち配偶者であり、子どもです。また、広義には、ローターアクト・インターアクトの皆様、そしてロータリーを取り巻くすべての団体も含めることができるでしょう。そして、その中でも21世紀で最も元気のある女性に焦点が当てられています。女性会員は確実に増加しつつあります。

今や世界的に男女共同参画が推進されている時代です。しかも少子高齢化に向かって、好むと好まざるにかかわらず、すべての職域に女性が進出し、あらゆる分野で社会を支えています。男性も女性も意識改革を通して、真の男女同権である社会をまずはロータリークラブから始めようではありませんか。お互いに協力して、明るい活力ある奉仕の夢が実現するよう努力していきたいと思っております。

ロータリー情報委員会

委員長 栗山 昇 (朝霞RC)

ロータリー情報を知ればロータリーがおもしろくなる

「ロータリー情報を知ることなくして一人前のロータリアンとして語ることはなかれ」少々抵抗ある大袈裟な言葉ではありますが、ロータリー情報を知れば知るほどロータリーがおもしろくなると信じているのは私一人ではないでしょう。

10年在籍の会員でもロータリーのことを理解できないと時々耳にしますが、みずからロータリーを知ろうとしない限り、不燃焼のままロータリーを去ることになると言っても過言ではありません。

一言にロータリー情報と言っても、さまざまな情報があります。当委員会は、あらゆる資料に基づき、正確な情報を伝達し、少しでもロータリーが理解できるようお役に立ちたい所存です。

最後に一言、ロータリー情報の源は、何といっても「ロータリーの友」「手続要覧」にまさるものはなく、すべてのロータリアンに熟読して頂くことをお願いする次第です。

職業奉仕委員会

委員長 野原正次郎 (川越西RC)

ロータリーがクラブと言われるゆえん

職業奉仕は「職業を通じて社会に奉仕する」と定義されています。ロータリークラブが行う奉仕活動は、それ自体が目的であるより、むしろロータリアンに奉仕を実践する勇気と便宜を与えるための機関です。ロータリーが協会とか組合とか言わず「クラブ」と言われるゆえんです。

現在の厳しい社会環境だからこそ、この精神を実行に移し、全員が役者として参加頂けるような活動計画を立てましたので、よろしくお願い致します。

①職業奉仕研修セミナーの開催

各グループごとに経済講演会を含めて開催する。(5回)

②私の職業倫理と職業紹介の冊子作成について

各ロータリアンの心に「私の職業倫理」とは何かを考える機会をつくり、各ロータリアンに自分の職業内容を広くPRすることを目的とする。

社会奉仕委員会

委員長 堀口計一（羽生RC）

組織はシンプルに、活動は理念を持って

今、社会はいろいろな面で曲がり角に来ており、改革の波が押し寄せて来ています。ロータリークラブも、その例外ではないと思っています。

ここで原点に立ち返り、組織はシンプルに、活動は理念を持って積極的に行うべきときではないでしょうか。

現在の社会問題として、家庭から地球規模までの環境問題、青少年非行の低年齢化、そして少子高齢化社会と、三つの大きな問題があるかと思えます。そうした中で、その地域のニーズに合った奉仕活動を見つけ、会員みずから汗を流し、奉仕活動を行うことが大切だと思えます。

地区として、すべての問題を取り上げるわけにもまいりませんので、今年度は『企業と環境』をテーマにしたセミナーの開催と、各クラブの奉仕活動の報告を頂き、それをさらに各クラブに情報発信していきたいと思っています。

国際奉仕委員会

部門委員長 山田勝也（川越南RC）
委員長 平岡達也（入間RC）

さらに効果的なWCS

国際奉仕委員会はこれまでも世界社会奉仕を中心に「世界寺子屋運動」に取り組み、各クラブにお願いして書き損じはがきやテレホンカードの収集、1円玉募金等を実施してきました。こうして昨年度は約460万円を世界の恵まれない子どもたちに贈ることができました。

今年度も極めて地道な方法ではありますが、ネパールに「第2570地区学校」を建設するためにこの運動を展開し、ロータリアンの間にまた一般の人々の間に理解と善意をはぐくんでいきたいと思っています。

また5年をめどにしている「地雷除去資金の支援」も4年目となりますが、引き続き継続していきます。あわせて「さらに効果的なWCS」を今年度テーマとして活動していく所存です。

ローターアクト委員会

委員長 滝澤常昭（深谷RC）

現在の状況を踏まえ活動していく

現在、関東地区の中でも2570地区はローターアクトクラブのクラブ数が最も少なく、活動中のクラブは、川越・東松山むさし・熊谷の3クラブのみで、クラブ数は減少の一途をたどっています。日本で適齢期の青年は他の奉仕団体への関心が高く、クラブの新設や会員増強は大変厳しい状況となっています。

ローターアクトクラブについては根本的に見直しをする時期に入っていると思いますが、一方では他地区で大学を中心としてクラブが設立され、活発な活動をしているのは注目に値します。

本年はこのような状況を踏まえ、現在活動中のクラブへの協力・援助、休眠中のクラブへのアドバイス、さらには地区内の大学へのアプローチ等、活動方針としたいと思います。また、新世代部門の一委員会として「日豪青少年相互訪問派遣団」プログラムの推進も重要なテーマです。

会員の皆様にはよろしくご協力お願い致します。

インターアクト委員会

委員長 田中博兼（熊谷RC）

インターアクトクラブの休会を食いとめる

本年度のインターアクト委員会と致しますと、各学校の顧問教師の先生方と連絡を密にして、地区内のインターアクトクラブの休会を何としても食いとめなくてはならないと思う。昨年度は15校でしたが、今年度は1校減の14校であります。

インターアクトは高校生を対象としている青少年で、これからの21世紀に活躍する若者でありますので、地区内提唱ロータリークラブと積極的に連絡をとり協力して頂いて、本年度もいろいろな奉仕プロジェクトに参加し、地域社会に奉仕し、また国際理解を推進していかなくてはならない。

インターアクト委員会は、年度内に三つの大きな事業がある。第1に地区年次大会、第2は地区合同奉仕活動、そして第3に地区次期指導者講習会である。

委員会委員長 本年度の抱負と方針

青少年交換委員会

委員長 山崎嘉正 (川越RC)

民間親善大使としての役割

青少年交換プログラムは、高校生を対象とした親善交流を通じて、国際理解の向上と世界平和の推進に寄与することを目的としております。

異文化を肌で体験することで、自国との生活習慣、ものの考え方などの違いを認識し、そこから異文化の存在を認め、さらに理解を深めることができれば、それが国際理解への第一歩と言えるでしょう。そこに生きる人々と生活を共にすることが、まさに異文化の体験であり、互いのコミュニケーションの中で理解と親善を図ることが、民間親善大使としての役割なのです。

さて、私たち委員会はこのプログラムを通じて、世界中に友好と親善の輪を広げるための、お手伝いをしておりますが、1人でも多くの若者に生涯にわたる「世界に手を貸す」機会を与えることができればと、この1年頑張ってみようと思います。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

ライラ委員会

委員長 山田 晃 (行田RC)

若い指導者たちを養成

ロータリー青少年指導者養成プログラムは、若い人々とロータリアンが参加する地区プログラムであり、若い人々の指導者及び善良な市民としての資質を伸ばすことを目的としています。

ロータリアンは青少年が将来の指導者となることを認識しており、将来の指導者を養成するのは重要な任務です。

青少年が人生の重大な決断を下す際に援助の手を差し伸べ、若い指導者たちを有望な方向に導き、指導者としての可能性を活かす最良の方法を見分けるビジョンを提供しようと思います。

RYLAは主要なロータリー青少年活動であるとともに、ローターアクトクラブとインターアクトクラブの結成や強化にもつながります。RYLAの目標を実践し活動していきたいと思っております。

R財団推進委員会／補助金委員会

委員長 梅澤將明 (坂戸さつきRC)

地域に密着した奉仕活動を

R財団推進委員会としては、まずは、各クラブのR財団に対する理解を深めるために、クラブのR財団委員長さんに複数年でその任務を務めてもらい、R財団の内容やプログラムに対して委員長さんみずから勉強をして頂き、「クラブ内でのR財団の活動に対して活性化を図る」という目的を推進する、大きな初年度であると言えます。

また「地区補助金」については、R財団の地区活動資金の中から20%が、人道的な社会奉仕に対して使用できるようになりました。現金を寄附することはできませんが、車いすや図書の寄贈等、地域に密着した奉仕活動が、より実践的に行われることが望まれるプログラムです。これはR財団の大きな改革であり、転換期とも言えます。全クラブへは補助金を授与することはできませんが、競争性の中で選定をさせて頂きたいと考えておりますので、多くのクラブの申請を期待しています。

R財団奨学学友委員会

委員長 弓田勝俊 (越生毛呂RC)

次世代を担う優秀な若人の育成

2003-04年度派遣国際奨学生6名の留学が決まり、新たに2004-05年度派遣国際奨学候補生8名を選出することができました。年間5回のオリエンテーション、2回の財団セミナー、各クラブでの卓話等を行い、「ロータリーについての知識」を学び、国際親善奨学生として立派な成果が得られるように、学友会の強力なる支援を受けながら育成に努めてまいります。

今回から、申請の方法が大幅に変わったため、各クラブさんにとりましてはご不明点が多々あり、今後改善できるところは改善していきたいと思っております。

ロータリー活動でこのプログラム(R財団国際親善奨学金)がロータリー活動のかなめだと言っても過言ではないでしょう。各会員の皆様、次世代を担う優秀な若人の育成に貢献するために、今後ともご理解ご支援を切にお願い致します。

G S E 委員会

委員長 宮澤 正 (朝霞キャロットR C)

次年度に向けて

地区分割後、9年間休止していたG S Eプログラムが1998 - 99年の本塚年度より、3年に1回の予定で再開され、既にこれまで2回(アメリカ7630地区、台湾3480地区)のG S E交換が大きな成果を上げ終了したことはご存知のとおりです。

今年度(高山年度)は開催しない年度となっている関係から特段の活動はありませんが、前回の台湾3480地区とのG S E交換経験を生かし、またこれまでのG S E委員長の指導を仰ぎながら、次年度(正田年度)の委員会に継承すべく準備をしまいたいと思います。

米山奨学推進委員会

委員長 松田正己 (所沢中央R C)

長引く不況を乗り切るには助け合いの精神

今年度は、長引く厳しい経済環境のもと、会員数の減少もあり大変な年度を迎えております。地区の予算も1人当たりに換算しますと1万5,000円強となります。したがって、助け合いによる全会員の格別のご協力なくして従来活動だけでは予算の達成は、難しいかもしれません。

そこで、各クラブの普通寄附金を年間6,000円にして頂き、そうすることによって地区全体で個人の特別寄附金を10人減らすことができるのです。これは大きな助け合いの精神です。

次に、各クラブの皆さんが米山の奨学生と接し親しくなることです。これは10月の米山月間だけではなく、普段から各クラブが米山奨学生を卓話に迎えて頂きたいと考えております。まず、米山奨学生と接し、知ることです。そこから興味がわき、親しみが芽生え信用が生まれ、その上に大きな奉仕の精神が築かれるものと私は思います。

米山奨学学友委員会

委員長 西澤孝夫 (越生毛呂R C)

奨学生との心の交流

米山奨学事業は、日本へ勉強に来た外国人留学生を支援することで、国際社会において活動する指導者を育成し、優秀な留学生に奨学することを目的としています。

本年度も24名の奨学生と元奨学生である学友の皆さんと共にオリエンテーションに始まり、卒業生を交えた学友会総会、カウンセラーと一緒に米山梅吉記念館への研修旅行、そして奨学生とOB、またロータリアン参加のパーベキュー大会、地区大会、卒業生の歓送会等の行事を通して、各地区でロータリアンと奨学生との心の交流の輪を広げ、充実した学生生活を送れるようお互いに手を携えて明日に向かって共生していきたいと思っております。

本年度はこの意義ある米山奨学事業を、ぜひ皆様にご理解を頂きますと同時に、微力ながら学友委員長として頑張る所存でございますので、ご支援をよろしくお願い致します。

編集委員会あいさつ

月信編集委員長 木藤文雄 (坂戸R C)

「親しみの月信」を目指して、見て頂ける「月信」にしようとしてスタートしました。ロータリーの「心を訴えられるもの」というガバナーの希望で表紙づくりから始め、R I会長テーマ“Lend a Hand”から、世界の貧困の中で、未来に輝く瞳を持った「子どもたち」をテーマにしました。

これらの写真で世界平和・飢餓撲滅・識字率向上等を多少なりとも訴えられればと願い「世界の子ども」シリーズでこの1年の表紙を飾ります。

本年度は会員及びご家族にも紙面づくりに参加して頂きたく「ギャラリー2570」の欄を設けました。ぜひともご投稿頂き、ご意見・ご要望等もお寄せ下さい。なおHP (<http://www.rid2570.gr.jp>)にも「月信」を掲載していますのでご覧下さい。

当委員会に委員はいません。ガバナーの指導のもと、印刷会社の方と事務局員とで細々と編集作業をしています。この1年間、よろしくお願い致します。